

1. 単元名「テニピン」

2. 単元の目標

- ラリーをつなげたり、ねらったところにボールをコントロールしたりするコツを理解し、実践しながらゲームをすることができる。(知識・技能)
- ルールを工夫しながら自分たちにあったゲーム作りをしたり、自分の動きや相手の動きを考えた作戦を工夫したりしたことを、身体や言語で表現することができる。(思考力・判断力・表現力)
- ルールを守り、他者と対話しながら協働的に学び合うことができる。(学びに向かう力・人間性)

3. 単元計画 (全8時間)

第1次 基本技術習得…3時間

第2次 ラリーをつなげることを楽しむゲームを行う…5時間

4. 授業の実際

授業づくりにおける基盤…2学期にはじめにネット型のソフトバレーボールの学習を行い、ネットボール型のゲーム運びを学んだ。

第1次…テニピンの基本となるボールをラケットで打つ練習を行った。

ラケットの持ち方やボールの特性を知り、打つ技術の個人差をうめるため、壁に向かって打つ練習を行った。

壁打ちにすることで、ボール打ちが苦手な児童も自分のペースで練習ができ、苦手意識なく導入ができた。しかし、ラケットの強度の問題により、なかなかボールのスピードがあがらず、力の弱い児童はボールを跳ね返すことができなかった。



壁打ちで技術を習得できれば、2人1組になってラリーを続ける練習を行った。その際のペ

アはボール打ちが得意な児童と苦手な児童を組み、得意な児童がポイントを教えるようにし、児童どうしのかかわりを通して上達するように設定した。

また、バウンドは何回しても良いこととし、とにかくラリーを続けるように意識させた。その結果、ラリーの技術は上達した。しかし一方で、ラリーをする際の範囲を設けなかったことで守備範囲が広くなりすぎたことは反省点である。



第2次…ラリーの技術が上達し、次のステップで簡単なゲームを行った。20m×10mのコートを利用し、ゲームを行った。ネットの代わりにカラーコーンを設置した。バウンドはしても良いこととし、ラリー中心のゲームを目標にした。

3人から4人チームを組み、打順を決め、打つ人以外は後ろでカバーに入るように声かけをした。

結果、チームで協力して、ラリー中心のゲームを行うことができた。毎回、楽しく取り組む児童の様子がみられた。その一方、打った後、その場でじっとしてしまい、コートの後ろに下がることができない児童もみられた。一部の児童にとっては、打つと同時に下がるのが難しかったようだ。



## 5. 成果と課題

テニピンを終えて児童の振り返りを見ると、楽しかったという意見が多く、ボール運動が好きになった児童が多くいた。今回取り組んだミニゲームを今後、高学年での本格的なゲーム展開につなげられるようにしていきたい。そのためには、コートやネットの高さに検討が必要であると考えます。